

第60期報告書

# KONDOTEC REPORT

平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日



私たちは地球温暖化防止国民運動、  
チャレンジ 25 キャンペーンに参加しています。

コンドーテックは地球温暖化防止  
のための国民的プロジェクト「チャ  
レンジ 25」に加盟し、企業理念に  
あります「豊かな社会づくりに貢献し  
ます」を実践すべく環境問題に取り  
組んでおります。



コンドーテック株式会社

証券コード 7438

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ここに平成24年3月期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の営業の概況と決算につきましてご報告申し上げます。

よろしくご高覧賜りますようお願い申し上げます。

平成 24 年 6 月



代表取締役社長 菅原 昭

## 当連結会計年度の業績

平成 24 年 3 月 期 の 連 結 業 績 結 果

**売上高** 38,745 百万円  
(前期比 +9.0%)

**営業利益** 1,926 百万円  
(前期比 +51.0%)

**経常利益** 2,019 百万円  
(前期比 +46.7%)

**当期純利益** 1,046 百万円  
(前期比 +25.4%)

### 【連結経営成績】

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響、欧州の金融危機や急激な円高の長期化、タイで発生した大洪水の影響など懸念すべき問題も多くありましたが、足元では米国景気に底堅さが見られ、日銀の追加金融緩和などを受けて円高・ドル安圧力に弱含みの動きが出てきております。

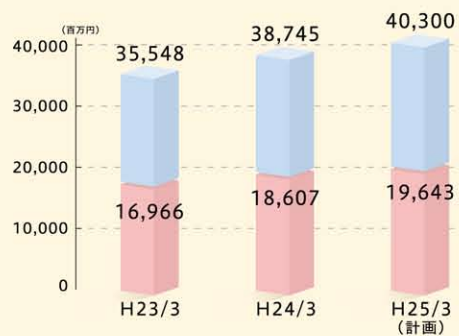
当社グループ関連業界におきましては、公共工事の先行指標である公共工事前払金保証統計が8ヵ月連続で前年比プラスで推移しており、震災の復旧・復興需要とともに、首都圏や近畿圏など、全国的に震災後に手控えられていた建設物件も出てきたものと推察されます。

このような状況のもとで、当社は自社製品の拡販、新規販売先の開拓や休眠客の掘り起こしなどの営業活動を展開するとともに、連結子会社である三和電材株式会社との事業拡大を図っております。

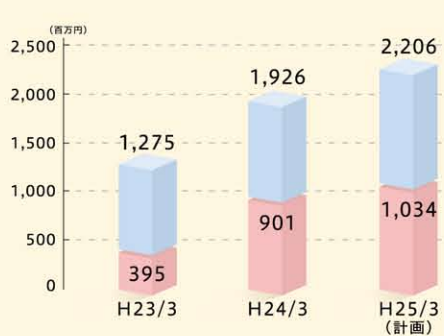
また、災害復旧や耐震資材を取扱う当社グループとして、震災後の緊急需要や台風による土砂災害・河川の氾濫などの災害復旧需要に、当社グループの総力を結集し、順次対応してまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は 38,745 百万円(前期比 9.0%増)となりました。利益面につきましては、復旧・復興需要による売上増と売上総利益率の改善により、営業利益は 1,926 百万円(同 51.0%増)、経常利益は 2,019 百万円(同 46.7%増)、当期純利益は 1,046 百万円(同 25.4%増)となりました。

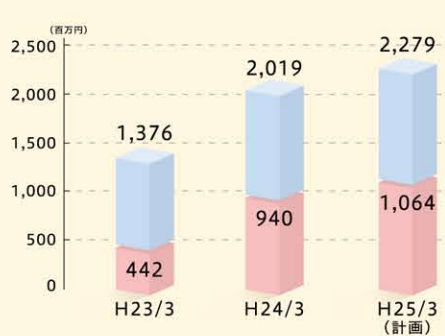
売上高



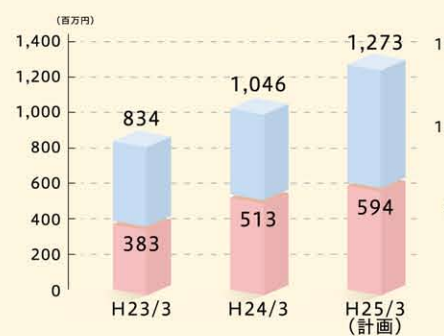
営業利益



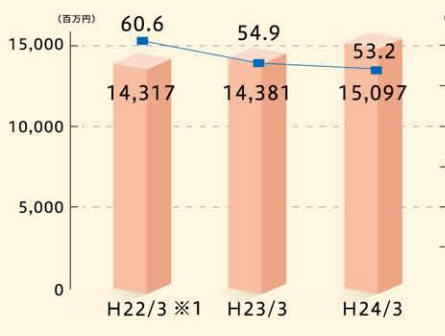
経常利益



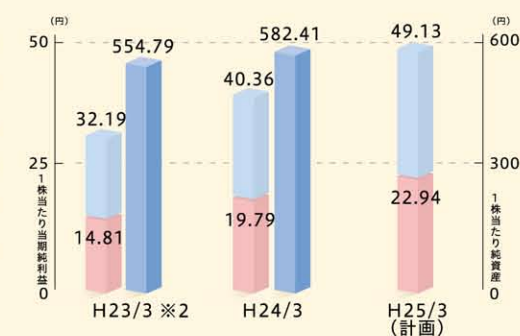
当期純利益



純資産・自己資本比率



1株当たり当期純利益・1株当たり純資産



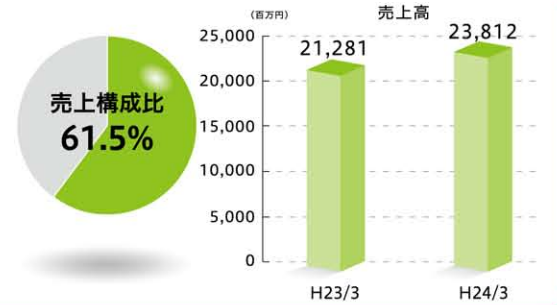
※1 平成 22 年 4 月に子会社を取得し、単体決算から連結決算に移行したため、H22/3 の数値は単体決算であり、参考値です。  
 ※2 平成 24 年 1 月 1 日付で普通株式 1 株につき 2 株の割合で株式分割を行い、表示の 1 株当たり指標は遡及修正を行っております。

【セグメント別業績】

当連結会計年度におけるセグメント別の業績は次のとおりです。

▶ 産業資材

土木・建築を始め、物流や船舶、電力、鉄道、営林、農園芸、環境、街路緑化、産業廃棄物関連などさまざまな業界に商材を供給している当セグメントは、震災の復旧・復興や台風などの災害復旧向けの資材の安定供給に努め、現場用品や仮設足場部材、物流荷役機器の需要の高まりもあり、当セグメントの売上高は23,812百万円（前期比11.9%増）となりました。



▶ 鉄構資材

推定鉄骨需要量は若干の回復基調で推移する状況で、また応急仮設住宅向けのターンバックル・ブレースやその関連部材など震災後の緊急需要に順次対応し、学校施設など耐震補強工事の需要の増加、新規販売先の開拓もあり、当セグメントの売上高は8,539百万円（前期比12.5%増）となりました。



▶ 電設資材

太陽光発電・エコキュートなどの省エネ・環境関連需要を積極的に取込んだことにより、一部の商品で売上は増加しましたが、震災後の不透明感から、着工建築物及び設備投資需要が低調に推移しました結果、当セグメントの売上高は6,393百万円（前期比4.2%減）となりました。



● 次期の見通し

平成25年3月期の連結業績予想

売上高 **40,300** 百万円  
(前期比 +4.0%)

営業利益 **2,206** 百万円  
(前期比 +14.5%)

経常利益 **2,279** 百万円  
(前期比 +12.9%)

当期純利益 **1,273** 百万円  
(前期比 +21.7%)

次期の見通しにつきましては、震災の復興需要による景気の下支えが見込まれるものの、欧州の金融危機の問題や電力不足問題、原油価格の高騰、復興事業の遅延リスクなど懸念材料も多く、先行きは不透明で、当社グループの関連業界におきましても、経営環境は厳しい状況で推移すると思われる。

このような状況のもとで、当社グループは受注競争、価格競争に耐えるようにコスト競争力を高め、自社製品・輸入商材・新商材の拡販と新規販売先の開拓の四つの重点施策を実行するとともに、連結子会社である三和電材株式会社との事業拡大を図ってまいります。

● 配当金

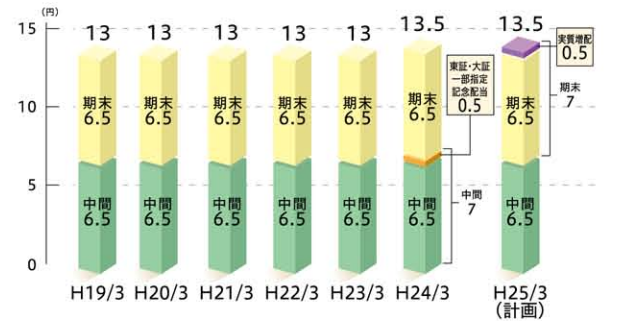
当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な施策として位置づけ、「収益の向上」、「企業価値の増大」を図りながら、配当性向を勘案し、安定配当を目指すことを基本方針としております。

この方針のもと、平成24年3月期の期末配当金は1株につき6円50銭とさせていただきます。

1. 期末配当金 1株につき6円50銭
2. 支払開始日 平成24年6月29日(金)

次期配当につきましては、1株につき中間配当6円50銭、期末配当7円、合わせて年間配当13円50銭を計画しております。

1株当たり配当金



(注) 当社は平成24年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、当該株式分割に伴う影響を加味し、適及修正を行っております。

## TOPIC 1 東証IRフェスタ2012へ出展

平成 24 年 3 月 9 日～ 10 日に東京国際フォーラムで開催されました個人投資家向けの IR フェア「東証 IR フェスタ 2012」に出展いたしました。

2 日間の開催の入場者数は累計約 14,500 名で、その内、約 800 名の方々に当社ブースへ足を運んでいただきました。

今後も個人投資家の皆様との対話を継続的に実施していくことで、より一層の企業価値向上に努めてまいります。



## TOPIC 2 信託型従業員持株インセンティブ・プラン「E-Ship」利益を出して終了

従業員の福利厚生と企業価値向上を目的に、平成 20 年 8 月に導入した信託の仕組みを用いた従業員持株会制度 (E-Ship) が、約 6,000 万円の利益を出して平成 24 年 2 月に終了し、持株会会員には単純平均で 1 人あたり約 10 万円が配分されました。

この E-Ship とは、当初に設定した信託が当社から一括して株式を購入し、その株式を毎月時価にて従業員持株会を通じて持株会会員が株式を購入する制度で、株価の値上がりに応じて制度終了時に分配金を受け取れる点に特徴があります。

当社の導入は日本で 4 社目 (野村證券 E-Ship 制度の内) ですが、現在では類似の制度も含めると 100 社以上の企業が導入している一般的な制度となりました。

一昨年の子会社化により、子会社の従業員の買付分が増加したことや昨年の東証・大証一部上場により、制度導入時より株価が大幅に値上がりしたこともあり、予定より 1 年半も繰り上げて、かつ本制度で多額の利益を出して終了することができました。従業員の財産形成と企業価値向上の双方の目的を達成することができ、株主の皆様にも貢献することができたと考えております。

## TOPIC 3 札幌工場にてアンカーボルトの JIS を取得

平成 24 年 5 月に札幌工場において、土地に施工した基礎コンクリートと建物をつなぐための重要部材である、「アンカーボルト」の JIS マーク表示制度による認証を新たに取得いたしました。

これにより、当社の全 4 工場にて「アンカーボルト」の JIS マーク表示制度による認証の取得となりました。

今後も、当社製品を安心してご使用いただけるよう、最高品質の製品を供給してまいります。

認証機関 一般財団法人 建材試験センター  
 認証番号 TC 01 11 001  
 認証品目 JIS B 1220 (構造用転造両ねじアンカーボルトセット)  
 JIS B 1221 (転造用切削両ねじアンカーボルトセット)



札幌工場



アンカーボルト



当社では、さまざまな場面で使用されます、およそ 40,000 点の製・商品を取り扱っております。

その中の一部のアイテムをピックアップし、ご紹介いたします。

## ● 型枠部材

「型枠 (かたわく)」とはコンクリートなどの液体状の材料を固化させる際に、支持している仮設の枠組みです。

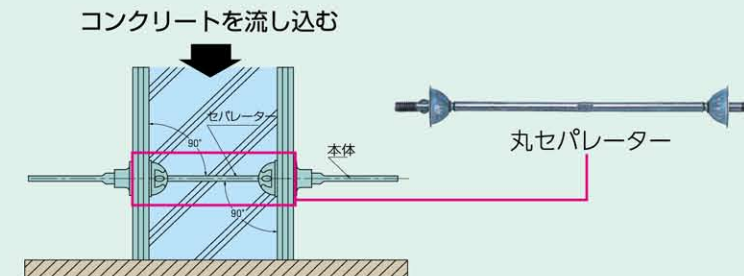
この「型枠」工事を行う際に使用される部材は建物が建ってしまうと、撤去もしくは、コンクリート内に埋没されてしまい、目に付くことはありませんが、コンクリート構造物の建設では、多く使われております。



## ○セパレーター 町で見かけるコンクリートのあの穴は…

コンクリートの構造物などを形成するために、壁の厚さを一定間隔で支えるのが、「セパレーター」です。

この「セパレーター」は、型枠にコンクリートを流し込み、固まった後は、取り除くことなく、コンクリートの中に残ることとなります。



最近マンションなどで、モダンな感じを出すために、コンクリートがむき出しとなっている壁や、建築物そのものがコンクリートの打放しとなっている場面を見かけることがあります。

その際、壁に丸い穴を埋めた跡が見られれば、この「セパレーター」を使用した為の跡です。



■連結貸借対照表

科目	(単位:百万円)		
	当期 (平成24年3月31日現在)	前期 (平成23年3月31日現在)	増減
<b>■資産の部</b>			
流動資産	18,528	15,874	2,653
① 現金・預金	2,790	3,396	△ 606
② 受取手形・売掛金	11,214	9,754	1,460
たな卸資産	2,670	2,341	329
③ 信託受益権	1,376	—	1,376
その他の流動資産	538	486	52
貸倒引当金	△ 61	△ 104	42
固定資産	9,874	10,319	△ 444
有形固定資産	8,425	8,636	△ 210
建物・構築物	2,094	2,240	△ 146
機械装置・運搬具	506	577	△ 70
土地	5,752	5,752	—
その他の有形固定資産	72	66	6
無形固定資産	378	485	△ 106
のれん	183	244	△ 61
その他の無形固定資産	194	240	△ 45
投資その他の資産	1,070	1,197	△ 127
投資有価証券	634	705	△ 70
その他の投資等	545	660	△ 114
貸倒引当金	△ 109	△ 167	58
資産合計	28,403	26,194	2,208

科目	(単位:百万円)		
	当期 (平成24年3月31日現在)	前期 (平成23年3月31日現在)	増減
<b>■負債の部</b>			
流動負債	11,551	10,071	1,479
支払手形・買掛金	5,098	4,573	524
短期借入金	700	900	△ 200
④ 未払金	4,009	3,299	710
未払法人税等	591	457	134
その他の流動負債	1,151	840	310
固定負債	1,754	1,741	13
退職給付引当金	1,197	1,166	30
その他の固定負債	557	574	△ 17
負債合計	13,305	11,812	1,493
<b>■純資産の部</b>			
株主資本	16,250	15,554	696
資本金	2,328	2,328	—
資本剰余金	2,096	2,096	—
⑤ 利益剰余金	12,325	11,628	696
自己株式	△ 498	△ 498	0
その他の包括利益累計額	△ 1,153	△ 1,173	19
その他有価証券評価差額金	377	390	△ 12
繰延ヘッジ損益	8	6	2
土地再評価差額金	△ 1,539	△ 1,569	29
純資産合計	15,097	14,381	715
負債・純資産合計	28,403	26,194	2,208

Point ① 現金・預金

現金・預金につきましては、次ページの「連結キャッシュ・フロー計算書」をご参照下さい。

Point ② 受取手形・売掛金

売上高の増加により前期末比で増加しておりますが、当期末残高には、当期末日が金融機関の休日だったことにより、末日満期手形が568百万円含まれております。

Point ③ 信託受益権

資金運用の一環として、当社の一括支払信託に係る信託受益権を取得したことにより、増加しました。

Point ④ 未払金

売上高の増加に伴う仕入高の増加により、支払手形に代えて一括支払信託を導入していることに伴い未払金が前期末比で増加しております。

Point ⑤ 利益剰余金

利益の増加に伴い、繰越利益剰余金が増加しました。

■連結損益計算書

科目	(単位:百万円)		
	当期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	前期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	増減
⑥ 売上高	38,745	35,548	3,197
売上原価	30,412	28,205	2,206
売上総利益	8,333	7,343	990
販売管理費	6,406	6,067	339
⑦ 営業利益	1,926	1,275	651
営業外収益	158	166	△ 7
受取利息配当金	11	5	5
仕入割引	111	115	△ 4
その他の営業外収益	36	45	△ 9
営業外費用	65	65	0
支払利息	2	3	△ 1
売上割引	49	46	2
その他の営業外費用	13	15	△ 1
経常利益	2,019	1,376	643
特別利益	0	263	△ 263
投資有価証券売却益	—	217	△ 217
その他の特別利益	0	45	△ 45
特別損失	19	136	△ 117
固定資産除売却損	19	4	14
その他特別損失	—	132	△ 132
税金等調整前当期純利益	2,000	1,503	496
法人税・住民税及び事業税	931	713	218
法人税等調整額	22	△ 44	67
少数株主損益調整前当期純利益	1,046	834	211
当期純利益	1,046	834	211

Point ⑥ 売上高

災害復旧や耐震資材を取扱う当社グループとして、震災後の緊急需要や台風による土砂災害・河川の氾濫などの災害復旧需要に、当社グループの総力を結集し、順次対応し前年比9.0%増となりました。

Point ⑦ 営業利益

復旧・復興需要による売上増と売上総利益率が0.8ポイント改善したことにより、前期比51.0%増となりました。

■連結キャッシュ・フロー計算書

科目	(単位:百万円)	
	当期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	前期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
⑧ 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,454	1,219
⑨ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,511	△ 320
⑩ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 550	△ 736
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△ 0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 606	162
現金及び現金同等物の期首残高	3,396	3,234
現金及び現金同等物の期末残高	2,790	3,396

現金及び現金同等物の当期末残高は2,790百万円となり、前期末と比べ606百万円減少となりました。主な要因は次のとおりです。

Point ⑧ 営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権及びたな卸資産の増加などの減少要因はありましたが、税金等調整前当期純利益の計上などの増加要因により、1,454百万円の収入となりました。

Point ⑨ 投資活動によるキャッシュ・フロー

信託受益権の償還による1,608百万円の収入がありましたが、信託受益権の取得2,985百万円による支出などがあり、1,511百万円の支出となりました。

Point ⑩ 財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入金の返済及び配当金の支払い等により550百万円の支出となりました。

- ▶ 社名 コンドーテック株式会社  
(英文名 KONDOTEC INC.)
- ▶ 本社 大阪市西区境川二丁目 2 番 90 号
- ▶ 設立 昭和 28 年 1 月 14 日
- ▶ 資本金 23 億 2,810 万円
- ▶ 従業員 556 名 (連結 658 名)
- ▶ 連結子会社 三和電材株式会社

- ▶ 役員 (平成 24 年 6 月 28 日現在)
- 代表取締役社長 菅原 昭
- 専務取締役 安藤 朋也
- 常務取締役 平田 茂
- 常務取締役 滝水 莞爾
- 取締役 近藤 勝彦
- 取締役 山田 清
- 取締役 宮 晴夫
- 取締役 矢野 雅彦
- 取締役 (社外取締役) 徳田 勝
- 常勤監査役 河瀬 哲夫
- 監査役 (社外監査役) 北山 諒一
- 監査役 (社外監査役) 村辻 義信

主要な事業内容

当社グループは、土木用・建設用・荷役用・船舶用金物、鋼材、溶接資材、鋸螺及び電設資材の製造販売並びに輸出入を主な事業としております。

主な製品・商品 | The main product and commodity

産業資材

ターンバックル、シャックル、足場吊りチェーン、丸セパレーター、ワイヤロープ、各種チェーン、コンテナバッグ、ブルーシート、土のう袋、物流荷役機器、木造住宅金物、型枠部材、仮設足場、現場用品、船舶・港湾関連資材、鉄鋼二次製品、環境関連資材、街路・緑化関連資材、鉄道関連資材 他



鉄構資材

ブレース、アンカーボルト、ハイテンションボルト、ボルトナット類、鉄骨部材、溶接・塗装資材、機械工具、施工工事 他



電設資材

照明器具、空調機器、換気扇、分電盤、電線ケーブル、配線器具、エコキュート、太陽光発電機器、家電機器 他

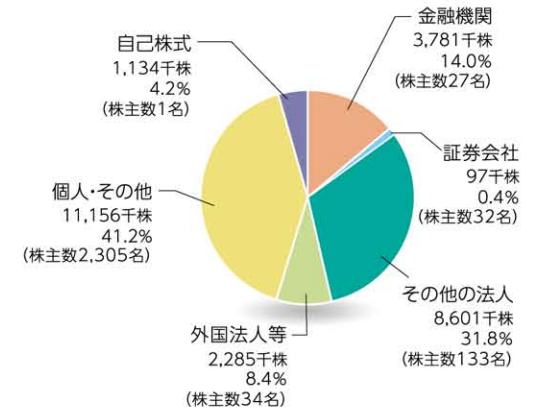


- ▶ 発行可能株式総数 60,000,000 株
- ▶ 発行済株式総数 27,057,000 株
- ▶ 株主数 2,532 名
- ▶ 単元株式数 100 株
- ▶ 大株主

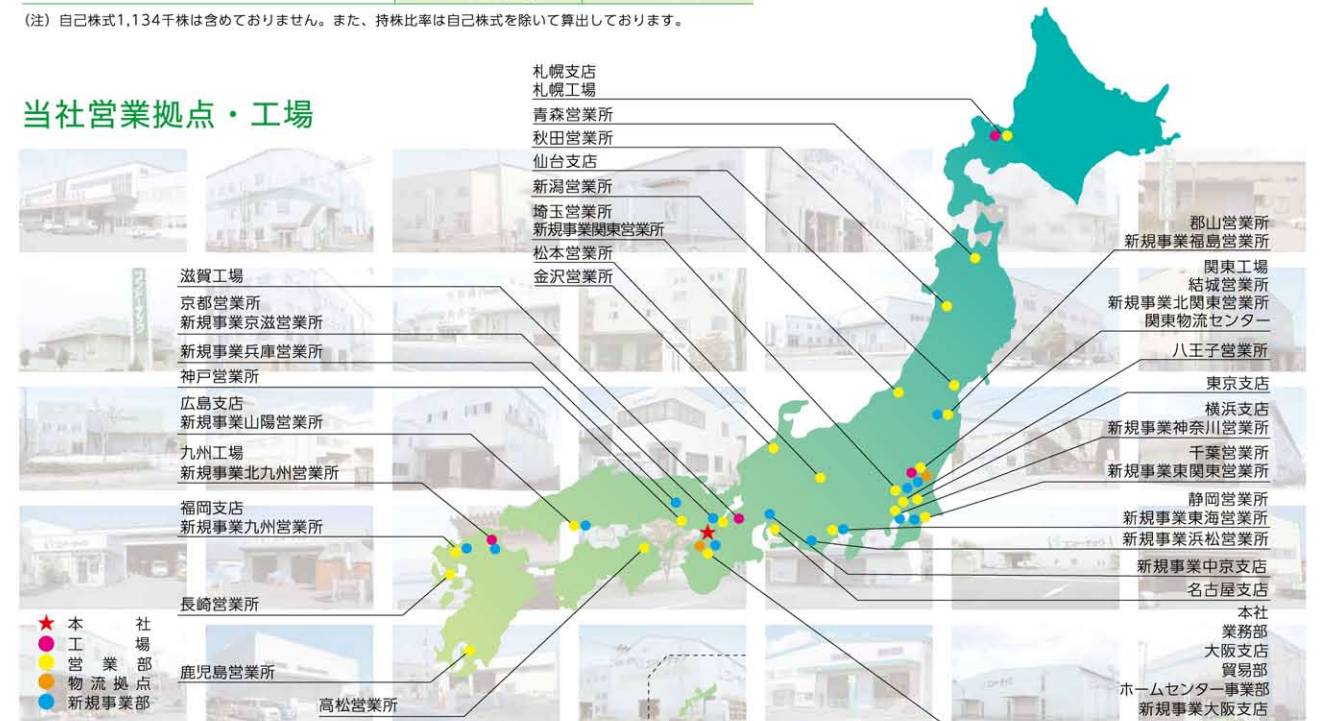
株主名	持株数	持株比率
有限会社藤和興産	3,014千株	11.6%
ビー・エチ・ティ・メディア・プライズ・ストック・ファンド・オブ・ファンダム・オール・セクター・サブ・ポート・フォリオ	2,000千株	7.7%
コンドール・テック・社員持株会	1,496千株	5.8%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,247千株	4.8%
株式会社Fプランニング	900千株	3.5%
近藤 純位	802千株	3.1%
株式会社三菱東京UFJ銀行	753千株	2.9%
近藤 勝彦	747千株	2.9%
近藤 雅英	664千株	2.6%
近藤 延滋	660千株	2.5%

(注) 自己株式1,134千株を含めておりません。また、持株比率は自己株式を除いて算出しております。

所有者別株式分布状況



当社営業拠点・工場



連結子会社 三和電材株式会社 (本社 名古屋市西区) 営業所 13ヶ所

## ● ホームページリニューアルしました

このたび、当社ホームページをより使いやすく、よりわかりやすいものとなるよう、デザインの一新をはじめ、情報の拡充や利便性の向上など、全面リニューアルを行いました。

特に個人投資家の方々へ当社をご理解いただくため、13のキーワードで当社の事業内容や強みをわかりやすくご紹介する「なるほど!! コンドーテック」などの新たなコンテンツを追加するなど、サイトの充実を図りましたので、ぜひご覧ください。

<http://www.kondotec.co.jp>



## ● 株主メモ

- 事業年度** 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会** 毎年6月
- 基準日** 定時株主総会／毎年3月31日、期末配当金／毎年3月31日、中間配当金／毎年9月30日  
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
- 株主名簿管理人** 三菱UFJ信託銀行株式会社  
**特別口座の口座管理機関**
- 同連絡先** 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
☎ 0120-094-777 (通話料無料)
- 上場証券取引所** 東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部

### [株式に関する住所変更等のお届出及びご照会]

#### 証券会社でお取引をされている株主様

- 郵便物送付先・電話お問い合わせ先  
お取引のある証券会社になります。
- ※未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店及び全国各支店でお支払いいたします。

#### 特別口座に記録されている株主様

- 郵便物送付先 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
- 電話お問い合わせ先 ☎ 0120-094-777 (通話料無料)
- お取扱店 三菱UFJ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店



**コンドールテック株式会社** 〒550-0024 大阪市西区境川二丁目2番90号  
TEL 06-6582-8441 [kikaku@kondotec.co.jp](mailto:kikaku@kondotec.co.jp)

2012年6月発行

当報告書には財政状態及び経営成績に関する将来予測の記述が含まれております。  
この前提及び将来予測の記述には、経営を取り巻く環境の変化などによる一定のリスクと不確実性が含まれております。



環境に配慮した植物油インキを使用しています。

**UD FONT**

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。